

大城真のうなりワークショップ

このワークショップは、大城真さんにうなりについて教わり、みんなで音を出しながらうなりを体験してみるものです。

日時：2019年12月15日（日）午後1時より5時まで

場所：野毛zart

大城真さんは、音を出すために自作した道具や手を加えた既製品を使ってライブパフォーマンスを行ったり、音や光の干渉に着目したインスタレーション作品を発表したりする人です。また、川口貴大、矢代諭史とのユニット“夏の大△”としても活動しています。サウンドエンジニアだったりレーベル主宰者だったりもします。



iPhoneの場合

*参加希望者は12月13日（金）までに中川（katsushinakagawa@ynu.ac.jp）までご連絡ください。大学の授業の学外実施版みたいなものですが、学外の方でもどうぞご参加ください。参加料金は不要です。

*参加者は、事前に、スマホに発振器のアプリをインストールしておいてください。大城真さんの作品のデモンストレーションなんかもあったりするかもしれません。



androidの場合

参考：大城真さん：<https://www.facebook.com/makoto.oshiro.90>

音響空間スタジオのウェブサイト：<http://ynutokiwadai.web.fc2.com/>

新音響文化研究会のウェブサイト：<https://sites.google.com/view/soundstudies/>

主催：横浜国立大学都市イノベーション研究院・音響空間スタジオ（中川克志）／新音響文化研究会

うなり

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

うなり（唸り）とは、

- ・力んだり苦しんだりするときに喉元から出る、低く長い声。
- ・感心したときに、思わず、または意識的に発する低い声。→「大向うを唸らせる」
- ・謡曲・浪曲・浄瑠璃などで、意図的に声を絞るようにして、低音で唄ったり語ったりするときの声。→白声も参照のこと
- ・物理学において、波動の干渉により生じる現象。以下で詳述。

物理学におけるうなり（英語：beat）とは、振動数（または周波数）がわずかに異なる2つの波が干渉して、振幅がゆっくり周期的に変わる合成波を生ずる現象を言う^[1]。

たとえば、ピッチがわずかに異なる二つの音波が鳴っているとき、各々の基音の周波数の差に相当する周期で音の強弱が聞かれる。このとき二つの音はひとつの音であるように聞こえるが、ピッチがある程度まで離れると両者は別の二音として聞こえる。